

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

2024
AUTUMN | Vol. 98

特集

海上保安大学校練習船「こじま」

練習船「こじま」最後の遠洋航海

「ワンチームこじま」 95日の航程を無事に完遂 レセプション5年ぶり開催 関係各国と共同訓練も

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **98**

2024 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 海上保安庁新長官に瀬口氏
- 1 齊藤国土交通大臣が石垣海上保安部などを視察
- 2 海上保安庁初の女性潜水士が誕生！
- 2 豪雨災害で孤立した要救助者2人を救助
- 3 名古屋港海上交通センター運用開始30周年
- 3 海の事故ゼロキャンペーンの実施について

- 4 **特集** 海上保安大学校練習船「こじま」

練習船「こじま」最後の遠洋航海

「ワンチームこじま」 95日の航程を無事に完遂
レセプション5年ぶり開催 関係各国と共同訓練も

12 *NEWS FLASH*

裏表紙

海の「事件・事故」は118番！
海上保安庁音楽隊 第30回定期演奏会

1
PHOTO GRAVURE
海上保安庁新長官に瀬口氏

令和6年7月1日、石井昂平前海上保安庁長官が退任し、瀬口良夫新海上保安庁長官が就任しました。
現場出身者の長官就任は、2年ぶり5人目となります。
東京都千代田区霞が関にある中央合同庁舎第3号館において海上保安庁長官交代式が行われ、石井前長官から瀬口新長官へ庁旗の引継ぎが行われました。
その後行われた長官就任記者会見では、「海上保安庁は、『正義仁愛』の精神を改めて肝に銘じながら、日本の海の安全と秩序を守り抜き、『平和で美しく安全な海』を次世代に継承してまいります」と抱負を述べました。



石井前長官(右)から瀬口新長官(左)へ庁旗引継ぎ



長官就任会見

2
PHOTO GRAVURE
斉藤国土交通大臣が
石垣海上保安部などを視察

令和6年6月26、27日、斉藤国土交通大臣は、第十一管区海上保安本部管内の石垣海上保安部及び石垣航空基地を視察しました。
石垣海上保安部では、尖閣諸島周辺の現場最前線で領海警備にあたる巡視船「やえやま」船内の視察を行うとともに、石垣島の高台から船艇基地全体を視察しました。
石垣航空基地では、航空機や最新の機材に加え、機動救難士による訓練等を視察しました。
斉藤国土交通大臣は、職員に対し「緊張の糸が張り詰めるような過酷な環境も多々あるかと思いますが、これからも島民の皆さん、ひいては日本国民の安全・安心のため、一致団結して任務を果たされることを期待します」と激励しました。



巡視船「やえやま」を視察する斉藤国土交通大臣



機動救難士の訓練を視察する斉藤国土交通大臣



長崎海上保安部で実施された辞令交付式



プール実習での呼吸停止訓練

海上保安大学校で潜水研修を修了した「濱地 多実」航海士補が、令和6年8月1日付で長崎海上保安部巡視船「でじま」潜水士として発令され、当庁初の女性潜水士が誕生しました。

濱地航海士補は、映画『海猿』の中で潜水士が活躍している姿を見て、潜水士になることを志しました。潜水士になるためには、各管区で実施される選考会を通過し、約2か月間の厳しい研修を修了する必要があります。濱地航海士補は、これらの関門を見事突破し、潜水士になることが出来ました。

3

PHOTO GRAVURE

海上保安庁初の
女性潜水士が誕生！



機動救難士の降下



吊上げ救助準備（一部写真を加工しています）



救急隊引継ぎ場所へ到着（一部写真を加工しています）

令和6年7月末、山形県などで線状降水帯が停滞し、記録的な大雨となりました。同年7月26日午前10時頃、山形県災害対策本部から同県最上郡戸沢村で発生した孤立者の救助協力要請があり、第二管区海上保安本部災害対策本部は、機動救難士同乗の航空機を現場へ急行させ、同日午前11時5分頃、要救助者2名を吊上げ救助し、同県新庄市にある東山公園にて救急隊へ引継ぎました。

4

PHOTO GRAVURE

豪雨災害で孤立した
要救助者2人を救助



名古屋港海上交通センター 運用開始30周年

令和6年7月15日、名古屋港海上交通センターは運用開始から30周年を迎えました。この節目にあたり同年6月26日、灘波陽子所長が、地元関係団体からの要望を受けて開所した当センターの歴史に感謝の気持ちを込めて、名古屋商工会議所の若手経営者の方々に対し「海の安全を守る〜女性海上保安官の歩み〜」と題し、記念講話を行いました。
また7月27日には地元の子供たちを招待してラジオ工作教室、8月には夏休み期間を利用した海上保安業務に関する個別説明会を初開催したほか、11月1日の灯台記念日には地元の小学生を招待するなどの一般公開を予定しています。



記念講話中の灘波所長



名古屋商工会議所 若鯨会（若手経営者）の皆様



ラジオ工作教室



海の事故ゼロキャンペーンの 実施について



海上安全指導員と連携した安全指導の様子



海上安全教室の様子

令和6年7月16日～31日までの間、「海難ゼロへの願い」をテーマに、官民一体となって海の事故ゼロキャンペーンを実施しました。期間中は、海上やマリーナ等において小型船舶の船長等に対し、ライフジャケットの常時着用や発航前検査の徹底、適切な見張りの徹底などについて安全指導を実施したほか、海難防止講習会や小中学校等での海上安全教室において安全教育を行うなど、全国各地で積極的に海難防止啓発活動を実施しました。

練習船「こじま」最後の遠洋航海

「ワンチームこじま」 95日の航程を無事に完遂
レセプション5年ぶり開催 関係各国と共同訓練も

取材・文/写真家 海上保安ジャーナリスト 米田 堅持



練習船「こじま」

練習船「こじま」は

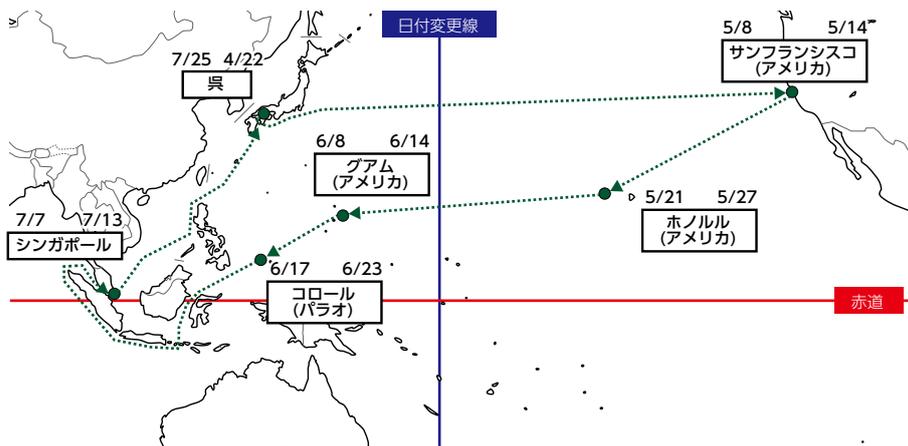
海上保安大学校の練習船「こじま」は平成5年3月に就役した総トン数2,950トン、全長115メートルの練習船で、平成6年から、世界一周の遠洋航海を27回行い、数多くの海上保安庁幹部を育成してきた。新たな練習船「いつくしま」就役に伴い、今回が最後の遠洋航海となったが、今後は海上保安学校（京都府舞鶴市）の練習船として海上保安官の育成を担う。船名の「こじま」は岡山県の児島半島に由来し、海上保安大学校練習船としては四代目となる。

太平洋一周 国際感覚養う遠洋航海

練習船「こじま」は令和6年4月22日から7月25日まで、総航程約19,200海里（約35,600キロ）、95日間に及ぶ最後の遠洋航海を行った。

令和6年度は国際情勢を踏まえ、太平洋での国際航海を行った。日付変更線と赤道を行き来する珍しいルートで、専攻科36名（うち女性7名）、研修科国際航海実習課程6名（うち女性3名）の計42名が乗船した。

遠洋航海は初級幹部として必要な知識、技能を修得させるとともに、精神力、実践力及び統率力の錬成を図り、国際感覚を養うために毎年実施している。



遠洋航海図



呉湾を航行する練習船「こじま」とそれを見送る在校生=4月22日



太平洋を航行する「こじま」=4月25日



入港式で、よさこいの演舞による歓迎を受け手拍子を送る実習生=5月8日(米国サンフランシスコ)



一般公開で子供たちから花束を贈られる実習生=5月11日(米国サンフランシスコ)

寄港地で親交深める

練習船「こじま」は、今回の遠洋航海で米国、パラオ、シンガポールの3カ国5カ所に寄港した。寄港地においては、現地の人々と親交を深め、実習生たちが各国の歴史風土を肌で感じるようになった。

◇サンフランシスコ

日系人らが歓迎

最初の寄港地は、米国東海岸の主要港であるサンフランシスコ。

日本を出港して17日、朝日と霧の向こうにゴールデンゲートブリッジが見え、スマートフォンで電波も入るようになった。入港前の緊張感と陸地が見えたことによる安心感が不思議な感覚を呼び起こす。

5月8日に行われた入港歓迎式典では、よさこいの演舞で歓迎してくれるなど、日系人が多い街ならではの歓待ぶりだ。

翌9日には、新型コロナウイルスの流行で中止されていた船上レセプションを5年ぶりに開催。米国沿岸警備隊(USCG)のアンドリュー・ティアンソン太平洋方面司令官夫妻や在サンフランシスコ日本国総領事館の大隅洋総領事、現地の日本人関係者らに加え、渡邊保範海上保安監(当時)も参加。実習生たちは笑顔で現地の関係者と親交を深めた。11日には、一般公開も実施し、日系人の小学生らが「こじま」を見学した。



レセプションでは、榮和志船長からUSCGアンドリュー・ティアンソン太平洋方面司令官へ記念品が手渡された=5月9日(米国サンフランシスコ)

また、出港前には、交流プログラムの一環として、米国沿岸警備隊士官学校(USCGA)の学生3人が当地から乗船し、航海を共にすることとなった。

最初の寄港地で初めて現地の人々と交流し、国際感覚を深めた実習生たちは、寄港地近くのオラクル・パークで米大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が出場する試合で声援を送るなど休日も米国を満喫し、次の寄港地であるホノルルへと向かった。

「こじま」は海保大生の原点



船長 榮 和志

海上保安大学の学生、実習生にとって練習船「こじま」は原点です。実習生の時に同じような事で怒られたなど思い出すこともあり、訓練は昔と変わりません。

遠洋航海は実習生を含めて「ワンチームこじま」で乗り切ったと思います。若い主任から「『こじま』には、これまでの実習生の涙と悔しさと教官の熱い思いが乗っています。舞鶴へ行っても受け継いでほしい」と言われましたが、その通りだと思いました。

自分は北海道函館市の出身で、船は身近な存在でした。当時は青函トンネル開通前で青函連絡船の船長がしてくれた話がきっかけで船に興味を持ち、海上保安大学を受験し入学しました。学校生活は予想以上に厳しかったのですが卒業して、遠洋航海を経て現場に出たら楽しかったですね。

船の運航は航海長以下がしっかりやってくれるので、遠洋航海での船長の役割は表敬訪問などで、しっかり関係を構築するなど、通常の航海とは異なるプレッシャーもありました。日米合同訓練をはじめ、シンガポールやフィリピンなどJICA各国との通信訓練は印象深かったです。各寄港地を実際に見て感じたり、国によって訓練の準備が違ったりといったことに気付くことができる遠洋航海は「生の教材」です。

陸が近くなると実習生がスマートフォンを手に電波を探る姿を見て、今はそういう時代なのだなど感じました。自分たちの時代と違って、この先は大変だと思いますが、実習生には新たな時代を作って頑張ってもらいたいと思っています。



戦艦ミズーリの船内で降伏調印文書の署名が行われた場所を見学する実習生
=5月23日 (米国ハワイ・ホノルル)

ダニエル・K・イノウエ上院議員の墓に献花をし、黙とうする実習生
=5月23日 (米国ハワイ・国立太平洋記念墓地)

「えひめ丸」の慰霊碑付近を清掃する実習生=5月22日 (米国ハワイ・ホノルル)



「こじま」船上で海上保安体操をする実習生=5月23日 (米国ハワイ・ホノルル)

レセプションで茶道によるおもてなしをする実習生=5月23日 (米国ハワイ・ホノルル)



日付変更線通過をUSCGAの学生と一緒に祝う実習生=6月1日

ミッドウエー沖海戦追悼式で献花をする榮和志船長=6月1日

◆ホノルル 平和への思い新たに

2 番目の寄港地は、「常夏の島」、ハワイ・ホノルル。5月21日に、かつてハワイ航路の船が目指したアロハタワーの横に着岸した。



アロハタワー近くに停泊する「こじま」=5月25日 (米国ハワイ・ホノルル)

22日には米原子力潜水艦と衝突して沈んだ愛媛県宇和島水産高校の実習船「えひめ丸」の慰霊碑で献花し黙とうをささげ、付近の清掃を実施。翌23日には、日本軍による真珠湾攻撃の舞台であるパールハーバーを訪れ、終戦の調印式を行った戦艦ミズーリを見学。国立太平洋記念墓地も訪問し、日系人の地位向上に努めたダニエル・K・イノウエ上院議員の墓などに献花した。戦没者を追悼するメモリアル・デーにあたる5月の最終月曜日が近いこともあり、敷地内外のいたるところに大きな星条旗がいくつも掲げられ、厳粛な雰囲気の中で平和への思いを新たにしました。

23日にはレセプションが行われ、見玉良則在ホノルル日本国総領事や米国沿岸警備隊第14管区のアラン・マッケイブ副司令官ら約100人が訪れ、実習生たちと意見交換を行った。また、海上保安大学校在学中からたしなんできた茶道を実習生が披露、日本文化の一端を紹介。その後は、応援団による力強いパフォーマンスで会場を大いに沸かせ、盛況のうちに幕を閉じた。

◆グアム 日米の若者の絆

6月1日、ミッドウエー海戦の戦没者追悼式を船上で行った「こじま」は8日、3番目の寄港地となるグアムに到着した。サンフランシスコから同乗したUSCGAの学生3人は、ここで下船した。入港前夜のフェアウェルパーティーでは、着物姿のUSCGAの学生たちと実習生がおはぎや、きな粉餅などを食べながら大いに盛り上がった。26日間、生活を共にした実習生たちとは固い友情の絆で結ばれ、「こじま」の前で胴上げをして別れを惜しんだ。

休日を含んで12日にはUSCGのセクターグアム(海上保安部)の施設を訪問。任務やドローン機材のデモンストラクション、巡視船などを見学した。夜に行われたレセプション会場には、下船したUSCGAの学生3人も訪れ、会場の片付けを手伝うなど、レセプションを支える一員として実習生たちをアシストしていた。13日には燃料や食料品などを搭載し、



遠洋航海 訓練と実習繰り返す日々

「こじま」では、出港してすぐに行われた総員退船部署訓練を皮切りに、初級幹部として必要な知識や技能を身につけるために連日のように訓練や実習が行われた。

訓練中、「指揮者になれ」と繰り返す教官をはじめ、訓練を統括する航海長からも「このままのレベルでは現場で通用しない」と厳しい言葉が飛び、泣いている暇もなく次の訓練や実習がやってくる。実習の中には、他の科を経験する転科実習もある。

実習生にとっては怖い存在である教官たちだが、教官からの伝達事項がうまく伝わらなかつた時や、教官自身が失敗したときは実習生に謝り、船内の信頼関係を作る努力をしている。あるOBによれば、謝り方を見せるのも実習の1つだと語るように、指揮官は階級にあぐらをかくのではなく、それにふさわしい人間でなければならぬことを実習生に示そうとしているのだ。

また、体調不良で休んでいる教官が実習生に対して、「訓練、どうだった？」と気にするなどの気遣いをしつつも、教えることの難しさに悩む姿も見られた。

航海中には、エンジンが停止し、船の電源が喪失したことを想定したブラックアウト訓練もある。最初は予告されるが、2回目以降は予告なく行われる。2回目までは、ぎこちない動きが目立った実習生も回数を重ねる毎に、これまでの復習や次に備えた対策が活きて、スムーズに復旧できるようになった。

海中転落者に見立てたブイに船を近づけていく接近操船訓練では、波や風の影響を受けやすい外洋で、思うように操船できず、「大学の沖合の瀬戸内海とは違う」と感覚の違いに悪戦苦闘しながら、船をゆっくり動かし訓練を繰り返した。また、船が破損・浸水したことを想定した防水部署訓練では、噴き出す水で濡れになりながら、

実習生は協力して必死に水を止めようと奮闘していた。煙が充満する中での消火訓練など、汗だくになりながら数々の訓練をこなし、終了後に検討会で問題点を抽出し、次へと繋げていく日々が繰り返される。実習生は、教官だけでなく、時には医務官にも相談しながら訓練計画を作ることもあり、様々な面から学習し、事態に対処する力をつけていく。

「現場に行ったら指揮者」「誰からも指摘されないから、間違っていることさえ分からない」「泣いていても人は助からない」「このままなら、現場だけが人が出て後悔する」……訓練中、教官となる主任たちは、現場で一緒に働く仲間としてしっかりとやってほしいという願いを込め、実習生に厳しい言葉を次々に投げかける。

船橋から見る景色も太平洋上では、船を見かけることは少なかったものの、インドネシア近海からマラッカ・シンガポール海峡へ行くと昼夜を問わず多くの船舶が行き来しており、海上交通の要衝であることを実感する。マラッカ海峡では、海中転落者の通報を受け、「こじま」も航行船舶の使命として捜索を実施し、未明にもかかわらず実習生は暗闇に包まれた海面にライトを照らしながら懸命に探していた。

実習生は、訓練や実習の合間に各寄港地の出入港要領も作成する。航海中はインターネットが使えないため、図書館や過去に先輩たちが作成した資料を活用して作るが、機械翻訳のような不自然な訳では主任のOKは出ない。「過去にチェックを通っている通航要領からコピーした文章が、機械翻訳であることを見破られて、差し戻されました」と語学に強い主任の存在は実習生にとって、乗り越えるべき壁となっていた。

一方で、遠洋航海中には息抜きと乗組員や実習生の親睦を兼ねた祭りもあり、実習生たちはその企画にも余念がない。今回は日付変更線と赤道を

往復する珍しいルートということもあり、船内では「4月29日」が2回あった一方、「5月31日」がなかったりと遠洋航海ならではの日程だった。日付変更線や赤道を通過するときには実習生が集まって祝い、ユーモアたっぷりの祭りに笑みをこぼしていた。

米国沿岸警備隊をはじめ、インドやベトナム、マレーシア、フィリピンのほか、海上自衛隊の護衛艦「いずも」との共同訓練も行われた。米国沿岸警備隊との捜索訓練では、「こじま」に同乗しているUSCGAの学生も一緒に捜索を行ったほか、JICA研修員として同乗した各国海上保安機関職員は、本国との通信訓練に「こじま」から参加し、国際協力の一翼を担った。

国際感覚の醸成という意味では、同乗するUSCGAの学生や、JICA等の研修員と同乗して過ごした経験は寄港地における交流よりも深く実習生の心に残った。海上保安大学校や「こじま」における教官と学生との接し方とUSCGAにおける教官と学生との接し方の違いは実習生にとって新鮮な驚きだったようで、自主研究のテーマとして発表した実習生もいた。また、JICA等の研修員として乗船した各国海上保安機関職員からは、各国の歴史を背景とした海上保安機関の在り方などを実習生だけでなく、若い主任たちも学んでいた。

実習生が慣れない英語を駆使しながら必死にUSCGAの学生やJICA等の研修員と生活を共にする中で「おもてなしの心」が通じたのか、「こじま」での出来事は一生忘れません」と、フェアウェルパーティーの挨拶を日本語で語る人もいるなど、今後に繋がる交流となったようだ。



煙が充滿する中、火災が起きたと想定される部屋へ向かって進む実習生=6月2日



火災船への放水を想定した訓練を行う実習生=6月2日



日付変更線通過祭で、バケツの水を浴びせられる実習生=4月29日



天測を行う航海科の実習生=4月28日



防水部署訓練で、水が噴き出す中、懸命に水を止める実習生=6月15日



ブラックアウト訓練で、トラブルの原因を探る実習生=5月5日

一回り成長した実習生 家族らと再会

7月25日、全ての訓練と実習を終えた「こじま」は、母港の海上保安大学校練習船棧橋を目指した。

途中、地元の人たちがUW(「安航を祈る」)旗を掲げ、消防車が放水をして出迎えた。実習生は、帽子を振りながら「ただいまー」と大声で呼びかけ、帰港への歓迎に応えた。呉の沖合には、就役したばかりの練習船「いつくしま」が見え、船橋にいた実習生からは「大きいなあ」と声が上がった。「いつくしま」の船体両側にあるディスプレイには「KOJIMA Welcome home JCGA KURE」とメッセージが表示され、練習船棧橋も目の前に見えてきた。

棧橋には、筒井直樹大学校長ら大学幹部や、家族や関係者が待ち構えている姿が見え、実習生は舷側に並び敬礼する登舷礼で応えた。

着岸後の帰港式で榮和志船長は「遠洋航海でしか得られない数多くの貴重な体験を通して大きく成長したものと確信している」と報告、実習生長の甘庶克樹(かんじゅ)実習生は「12月に初級幹部海上保安官として現場に配属されるが、遠洋航海で学んだ知識、技能、精神力を糧に日本の海の平和と安全を守っていきけるように今後も日々精進していきます。」と決意を述べた。式典を終えた実習生は久しぶりに家族らと再会し、成長した姿に両親や関係者らは一様に目を細め、実習生や乗組員が全員、無事に遠洋航海を終えたことを喜んだ。



帰港を歓迎する放水を受け、「ただいまー」と叫ぶ実習生=7月25日(広島県呉市沖)



遠洋航海を終え家族らと再会を喜び実習生=7月25日(広島県呉市・海上保安大学校)



「いつくしま」(左手前)と「こじま」(右奥)

「こじま」で学んだことは現場ではすべて必要になる



教官 かねこ けんせい 金子 慧星

遠洋航海中、実習生には「こじま」で学んだことは、現場へ出るとすべて必要になると話しています。

「こじま」には今年4月から乗っています。基本的に忠実に基礎的なところから実習生に教えています。実習生時代は、なぜそのような指摘を受けるのか、言葉の真意がつかめませんでしたが、いざ教える側になると、自分も当時の教官と同じ言葉を使っていると気付きました。

私が実習生として遠洋航海に臨んだ時は新型コロナウイルスが猛威を振っていた頃で、合同訓練も他国の人の同乗もなく、船のいないところを航海していただけでしたが、今回の遠洋航海は、すべての寄港地でレセプションが開催され、サンフランシスコなどで一般公開も開催しました。現地の人と交流することで、国際感覚のかん養を肌で感じるとともに、「これこそ遠洋航海だ」と

実感しました。

実習生は遠洋航海を経て、意識も技量も上がってきましたが、今の段階で主任として即戦力というには、まだまだです。だからこそ、現場でも貪欲に食らいついて取り組む姿勢だけは忘れないでほしいと思います。

私も教官になってみると、通常の航海士としての仕事に加え、実習生の指導、訓練の立案など、様々な業務を処理しなければならず、先輩である先代の教官方の偉大さを改めて感じました。教官とはいえど、自分の仕事の進め方や器量はまだまだ、磨いていかないといけないと思っています。実習生に教える傍ら、毎日が私にとって学びです。

将来的には国際業務に携わることを希望しています。そんな中で、教官という形で「本来の遠洋航海」を経験できたことは良かったと感じています。

教える立場、伝えることの難しさ感じた



教官 もり かいと 森 海斗

映画「海猿」を見て潜水士はカッコいいなあと思っていたら、父親から海上保安庁を勧められたのが、海上保安大学校を受験するきっかけでした。入学して上級生から厳しく指導され驚きましたが、学生生活を通じて海上保安庁にはいろいろな業務があると知って、選択肢が広がりました。海上保安大学校を卒業した後は、警備を主な任務とする巡視船「きい」に配属され、広島サミットをはじめとする警備業務に従事してきました。

教育には以前から興味があったのですが、今年の4月から「こじま」に乗ってみて、改めて教える立場というのは本当に難しいと感じました。実習生も一人一人考え方が違うし、何回も同じような指導をしていると、自分の伝え方に問題があるのではないかと悩むときもありました。それでも必死に頑張っている実習生を見て、彼らのためにできる教育を一心に考えようと決意しました。

実習生と一緒に祭りを楽しんだりするのは好きですし、今の実習生は2年後輩で、大学で一緒に生活をした仲なので、本当は和気あいあいと、ただの先輩後輩でいたいと思うときもあります。

しかし現場では、近くに先輩がいるケースは少なく、1つ上の主任が50代で、指示を受ける士補が同年代だったりしますから、自分が考えている以上に上の立場になるので人間関係が大事だと思いました。指揮官として振舞わなければならないため、責任感を持ってもらうと同時に人間力を育てなければいけないと実習生には伝えるようにしています。



Interview

海外で文化の違いに驚く



実習生 榎 頼知

遠洋航海は一言で言うと、「日々勉強の毎日」でした。「こじま」に乗って、これまでにないくらい、考えることが多かったのですが、事前に考え、綿密に準備をしても、訓練ではうまくいかないことが多く、改善策を考えているうちに次の訓練が来てしまったこともありました。

エンジンが止まって、停電してしまうことを想定したブラックアウト訓練も、自身の所掌する船の電源、エンジンのことだけでなく、他科の行っている操船や通信などを連動して考えなければならず、大変でした。しかしながら船に乗って仕事をする身として本当にブラックアウトが起きた時のことを考えて、船で士官として仕事をするを見据え、しっかりと取り組みました。

遠洋航海に出てからは、教官に言われて分からなかったから調べるのではなく、自分が疑問に思うことを率先して調べるようになりました。

指導してくれる教官方は先の先を見ていると感じます。自分が現場に出たら、先を見据える力に加えて、巡視船としての運用など、まだまだ学ぶことがたくさんあると感じています。また、ベテランで経験豊富な主任機関士は、トラブルが発生しても、豊富な知識から適切な対応を導き出すことができ、指揮官としての力を発揮するのは、やはり知識に裏付けられた判断力だと強く思いました。

遠洋航海では同期の存在は大きく、自分一人では解決できない問題でも仲間とともに考えることで、何度も助けられました。

また、海外は初経験だったので文化の違いに驚きました。サンフランシスコなどの寄港地では、自由な服装やスタイルをおう歌している人も多かったのが印象的でした。

今は尖閣諸島などのような現場最前線で働きたいと思っています。また、子供達に安全啓発をする活動にも取り組んでいきたいと考えています。



NEWS FLASH

2024年6月-8月

八管区 本部 7月10日

管内潜水士等合同訓練



7月 七管区 本部 7月1日

練習船「いつくしま」引渡式



6月 四管区 本部/鳥羽保安部 6月13日

巡視船「いすず」展示訓練



三管区 本部 7月12日

シウマイでお馴染み!崎陽軒 ひょうちゃん一日海上保安官任命



十管区 奄美保安部 6月22日

巡視船「あまぎ」一般公開



二管区 青森保安部 7月14-15日

八甲田丸港フェスタ2024 ～巡視艇「ひばかぜ」「さわかせ」 体験航海～



九管区 本部 7月6日

第九管区海上保安本部× アルビレックス新潟コラボ



三管区 横浜保安部 7月15日

横浜・八景島シーパラダイス における安全啓発活動



学校 保安学校 7月7日

五森祭2024



一管区 釧路保安部 6月23日

巡視船「そうや」一般公開 ～巡視船そうやおにいさん登場!～



8月

本庁

広報室

8月8日

こども霞が関見学デーにおける音楽隊コンサート



十管区

鹿児島保安部

8月11日

屋久島灯台一般公開



三管区

御前崎保安署

8月25日

巡視船「ふじ」一般公開



本庁

教育訓練管理官

8月27日

海上保安政策プログラム第9期生による長官表敬



十管区

本部/鹿児島保安部

7月20日

錦江湾潮風フェスタ
ミス日本「海の日」
一日巡視船「おおすみ」船長任命



大学校

7月22日

令和6年度遠泳訓練



十一管区

本部

7月26日

那覇空港マリンレジャー
事故防止啓発活動



本庁

広報室

7月17日

小野あつこさん長官表敬



六管区

呉保安部

7月18日

広島県呉市内の小学校で
海の安全教室を実施



五管区

和歌山保安部

7月20日

和歌山県地域密着型アイドル
「FUN×FAM」に対する
アンバサダー任命式



海の「事件・事故」は118番!



118番通報とは

海難や悪質・巧妙化する密輸・密航等の事犯に迅速かつ的確に対応するため、平成12年から導入された緊急通報用電話番号です。

通報のポイント

「いつ」「どこで」「なにがあったか」などを簡潔に落ち着いて通報してください。GPS機能を「ON」にした携帯電話で通報すると、正確な位置の把握につながります。

海難、人身事故に遭遇した、または目撃したとき



密漁・密輸・密航事犯等の情報を得たとき



油の排出等を発見したとき



不審船、漂流・漂着木造船を発見したとき



聴覚や発話に障がいがある方へ NET118

事前登録制
無料



右のコードを読み取る、または entry@net118.jp に空メールを送信し、返信されたメールの案内手順に従い事前登録をお願いします。



入場無料
(入場整理券が必要です)

LIVE

本演奏会は、YouTubeでのライブ配信を実施いたします。

海上保安庁音楽隊技術顧問

指揮 荒井 弘太

演奏予定曲

- ♪吹奏楽のための第二組曲(G.ホルスト)
- ♪英雄の証「モンスターハンター」より
- ♪ありがとうの花 ほか

2024.11.13(水)
開場 18:00/開演 19:00

東京文化会館 大ホール
東京都台東区上野公園5-45
JR上野駅 公園改札から徒歩約1分
東京メトロ上野駅 7番出口から徒歩約5分
京成上野駅 正国口改札から徒歩約7分
※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

はがき、インターネットから応募が可能です。以下のURLまたは二次元コードからご応募ください。(応募締切:10月2日(水))



<https://www.kaiho.mlit.go.jp/doc/band/concert/30th-concert-guide.html>